

北九州地区小児科医会会報

講演会・カンファランスの等のご案内

北九州地区小児科医会例会のご案内

第52回北九州子どものこころ懇話会合同学術講演会
(第576回合同例会：WEB開催)

日時：2022年6月16日（木）19:00～21:00

特別講演：幼少期の環境が発達に及ぼす影響

演者：福井大学子どものこころの発達研究センター
センター長 発達支援研究部門 教授 友田 明美 先生

事前申込先：

<https://us06web.zoom.us/meeting/register/tZYvcuGrD4jHNalO-Tf6s7JT1AUaxb2zvZe>

上記もしくは右記のバーコードより事前登録
ください。（当日の参加アドレスが自動配信
されますので、必ずご確認ください）
(2022年6月13日締切です)



第577回北九州地区小児科医会例会（WEB開催）

日時：2022年7月21日（木）18:55～20:15

一般講演：小児科診療所でのリンゴック導入経験

演者：いづかこども診療所 院長 牟田 広美 先生

特別講演：小児アトピー性皮膚炎の最新治療

～外用療法から全身療法まで

演者：福岡市立こども病院 アレルギー・呼吸器科
科長 手塚 純一郎 先生

ウェビナー登録先：

https://abbvie.zoom.us/webinar/register/WN_fMYwduC7QICr8ds-7bfZRw



その他講演会などのご案内

第446回小倉小児科医会臨床懇話会（WEB開催）

日時：2022年6月23日（木）19:00～

演題1：経口補水液を考える

演者：北九州市立医療センター 小児科 前原 健二 先生

演題2：WBGT（暑さ指数）から見た熱中症とその予防

演者：北九州市立医療センター 小児科 堀川 悠 先生

産業医科大学セミナー等のご案内

現地とWeb配信のハイブリッドで開催いたします。

Webでの参加をご希望の先生は、

j-syoni@mbox.med.uoeh-u.ac.jpまでご連絡願います。

後日、参加方法の詳細をお知らせいたします。

産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス

日時：2022年6月20日（月）19:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：多彩な症状を持つ新生児のサイトメガロウイルス感染症
～診断に難渋した2症例の経験～

演者：産業医科大学 小児科 清水 大輔 先生、
田中 健太郎先生、渡邊 俊介 先生

産業医科大学小児科セミナー

日時：2022年6月30日（木）18:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：性分化疾患

演者：産業医科大学 小児科 齋藤 玲子 先生、池上 朋未 先生

産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス

日時：2022年7月11日（月）19:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：患者数が増加している梅毒に対して小児科医が対応すべ
きことー梅毒母体から出生した児への診療を経験してー

演者：産業医科大学 小児科 保科 隆之 先生、
米田 哲 先生、永汐 孟 先生、大内田 史織 先生

産業医科大学小児科セミナー

日時：2022年7月28日（木）18:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：ダウン症候群と血液疾患

演者：産業医科大学 小児科 本田 裕子 先生、中島 健太郎 先生、
守田 弘美 先生、樋口 尚子 先生、浅井 完 先生

「新生児マススクリーニングセミナー」

日時：2022年6月9日（木）19:00～20:00（WEB開催）

特別講演：新生児マススクリーニングの現状と拡大

スクリーニングへの期待

演者：熊本大学大学院生命科学研究部

小児科学講座 教授 中村 公俊 先生

事前申込先：

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_YdpH6dbdQpWw5BF9gIMquw



北九州 HPV ワクチンセミナー（WEB開催）

日時：2022年6月13日（月）19:00～

演題：子宮頸がん・HPV ワクチンの現状と課題

演者：産業医科大学 産科婦人科学 教授 吉野 潔 先生

< 要事前申込 > 連絡先：MSD(株) TEL FAX.0120-860-744

令和3年度九州小児科医会審査員連絡協議会の報告 (2)

先月に続いて令和3年11月に行われた表記の連絡協議会の報告の続報(検査および治療)をお届けいたします。

社保(支払基金)は今年10月から全国6ブロック(14カ所の審査業務センター)に点検業務が集約化されます。20数年続く本連絡協議会の存在は、九州ブロックでの小児科レセプトの審査において、その特殊性や審査委員の裁量に任される事例について大きな役割が期待されます。

II、検査に関するもの

Q-1: アトピー性皮膚炎(疑い)で非特異的IgEと特異的IgEの同時算定は認められますか?

A-1: 小児においては特異的および非特異的IgEの同時算定は認めています。ただし、特異的IgEはI型アレルギーの確定病名がないと認められません。なお、アレルギー性皮膚炎(正しくはアレルギー性接触皮膚炎)はIV型アレルギーであり、特異的および非特異的IgEの算定は認められません。

Q-2: 尿沈渣を行った場合には腎・尿路系の傷病名が必要ですか?

A-2: 尿沈渣には適応となる傷病名が必要です。尿一般はスクリーニング検査として認められます。尿沈渣に関する医科点数表の解釈;「尿中特殊物質定性定量検査において何らかの所見が認められ、又は診察の結果からその実施が必要と認められて実施した場合に算定すること」。

Q-3: 敗血症疑い病名で血液培養のないPCT算定は認められますか?

A-3: 敗血症は重篤な疾患ですから外来で何例も算定されることはありません。原則として血液培養は必要です。ただし、新生児や乳児早期では血液培養を必ずしも必要としませんが、診療内容によっては返戻または査定の可能性があります。

Q-4: 低亜鉛血症に対するノベルジンの投与中の血清銅測定が必要ですか? その場合、銅欠乏症(疑い)の傷病名は必要ですか?

A-4: ウイルソン病の治療薬ノベルジンは銅の排泄を促しますが、逆に血清亜鉛値は上昇します。この作用を利用して低亜鉛血症の治療薬として用いますので血清銅の測定は必要です。その際には銅欠乏症(疑い)の病名が必要です。なお、検査間隔は低亜鉛血症、ウイルソン病などの慢性疾患では数ヶ月に1回程度が基本となります。

Q-5: 腫瘍マーカーの算定回数とその実施間隔

A-5: 原則としては1回です。医科点数表の解釈;「診療及び腫瘍マーカー以外の検査の結果から悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者に対して、腫瘍マーカーの検査を行った場合に、1回に限り算定する」。定期的なスクリーニングでなければ、3ヶ月以上空けば次の検査は認めています。してください。

Q-6: 補体(CH50、C3、C4)測定で注意すべき点を教えてください

A-6: 補体低下の適応となる傷病名(疑い)が必要です。初診時はCH50、C3、C4併施も認められますが、経過観察時は腎疾患では原則C3のみ、膠原病ではC4を中心にCH50、C3の併施を認めています。病勢や検査値の推移を考慮して多項目にならないようにしてください。疑い病名での連月測定や常に3点セットでの算定は返戻または査定の対象となります。

Q-7: 関節リウマチ関連疾患へのフェリチンは認められますか? 検査間隔はどのくらいが適当ですか?

A-7: マーカーとして有用な膠原病に対してフェリチン測定は認めています。頻度に関しては安定していれば3ヶ月に1回程度としています。

Q-8: インスリン依存型糖尿病でCPRはどのくらい間隔が空けば次の測定が可能でしょうか?

A-8: CPRの測定間隔は3~4ヶ月に1回程度を基本としています。CPRまたはIRIの一方のみで、インスリン治療が行われている例ではIRIは認められません。

Q-9: 心疾患(周術期、乳幼児、フォンタン循環)におけるBNPの検査間隔の目安がありますか?

A-9: 安定期は年2~3回程度、変化が大きい場合(心疾患の病名+心不全)は月1回まで算定可能です。

Q-10: 膠原病(SLEやJIAなど)の自己抗体の検査間隔についての目安はどのくらいですか?

A-10: 診断確定後には3~4ヶ月に1回程度を基本としています。慢性疾患ですので、増悪期などで頻回となる場合は必要性が分かる詳記の添付が望ましいと思われます。

Q-11: 各種内分泌疾患におけるホルモンや自己抗体の間隔の検査間隔の目安はいかがですか?

A-11: 自己抗体は3~4ヶ月に1回が基本です。ホルモンの測定は疾患や年齢によって変わるのでケースバイケースで審査します。

Q-12: 「ビタミンD欠乏症(疑い)」傷病名で25-OH-VD(25-ヒドロキシビタミンD)の測定は可能でしょうか?

A-12: 算定できません。医科点数表の解釈で「原発性骨粗鬆症、ビタミンD欠乏性くる病、ビタミンD欠乏性骨軟化症(いずれも疑いを含む)に限る」となっています。同様に1,25-ジヒドロキシビタミンD3についても医科点数表の解釈で対象疾患が決められています。

(<https://www.mhlw.go.jp/content/000914399.pdf>)」が参考になります。COV-19と同時にインフルエンザ抗原定性も可能な検査では両者の傷病名(疑いを含む)が必要です。インフルエンザは流行がないままに例年の流行期を過ぎていますので、必要性が分かるコメントを付記した方が丁寧です。

令和3年度九州小児科医会審査員連絡協議会の報告(2) つづき

III, 治療に関するもの

Q-1: 思春期早発症においてリュープリン4.5をmg投与する際、3.75mgバイアル2バイアルを認められますか？

A-1: 3.75mg製剤と1.88mg製剤で投与量を調整してください。

Q-2: メラトベルについて、傷病名は神経発達症だけでよいですか？ 入眠困難(睡眠障害等)の併記が必要ですか？

A-2: 入眠困難を示す傷病名の併記は必須です。また、単に神経発達症ではなく、具体的な神経発達症の傷病名を記載すべきと考えます。年齢制限外での使用は詳記が必要です。ない場合や不明瞭な傷病名は返戻になります。また、上限量も決められていますので注意が必要です。

Q-3: ラミクタールはバルプロ酸を併用する場合や、グルクロン酸抱合への影響が明らかではない他の抗てんかん薬を併用する場合に上限が200mgとされています。それを越える投与がある場合は認められませんか？

A-3: 投与量にもよりますが、多くの場合は詳記などに血中濃度を含めた必要性の説明を付記することで算定可としています。

Q-4: 痔瘻の病名でネリプロクト軟膏は認められますか？

A-4: 認められません。適応症: 痔核に伴う症状の寛解、となっています。

Q-5: 皮膚掻痒症でキングバート軟膏は認められますか？

A-5: 認められません。皮膚炎や湿疹など皮膚所見に変化がみられる適応症の記載が必要です。

Q-6: 抗ヒスタミン薬や抗アレルギー剤には年齢制限が設定されている製剤がありますが、厳格に順守が必要でしょうか？

A-6: 原則、年齢制限は遵守してください。多数の製剤が発売されていることから、適応のある他剤に変更したり、無理な場合には「錠剤は内服できない」などのコメントを付けるなどの対応も考慮してください。

Q-7: 喘息性気管支炎でクロモグリク酸 Na (インタール) は認められますか？

A-7: 認められません。初診料や小児抗菌剤適正使用支援加算などの算定基準からも、気管支喘息と喘息性(様)気管支炎はできるだけ区別する方向で個々の診断を行ってください。

Q-8: 同様に、喘息性気管支炎に対するステロイド吸入薬の使用の可否はいかがでしょうか？

A-8: 認められません。適応症は気管支喘息です。A-7にあるように両疾患は区別するようにお願いします。

Q-9: 新生児仮死蘇生術(K913)について、仮死1度と仮死2度の適応について教えてください。

A-9: 仮死の程度(軽症、重症)は1分後のアプガースコアによるとなっています。1分以内に蘇生術が施行される場合には、蘇生術開始時アプガー項目によるスコアを記載してください。日本新生児成育医学会事務局からの令和3年2月の通知でも、「新生児仮死蘇生術1(軽症仮死): Apgarスコア 1分値が4~7点。新生児仮死蘇生術2(重度仮死): Apgarスコア 1分値が0~3点」とする確認が行われています。ただし、「なお、超早産児や小額症などでApgarスコア 1分値とは関係なく高度な蘇生が必要で、その請求を行う場合は詳記をつける必要があります。」とも付記されています。参考にしてください。

(福岡県小児科審査委員連絡会)

協議事項・報告事項

1) 2022年7月2日に福岡県小児科医会総会があり、今回は北九州地区小児科医会が担当となります。

開催日時：2022年7月2日15:30～19:00 Zoom配信

会場：リーガロイヤルホテル小倉

現地集合は10名の予定です。

県会長、庶務、会計、ネット業者2名

吉田会長、庶務、講師の北先生、猿渡先生、座長の古賀靖敏先生

特別講演1：創薬ターゲットとしてのミトコンドリア
ーエネルギー代謝からがん、感染症までー

演者：長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科科長
東京大学名誉教授 北 潔先生

特別講演2：拘りのものづくり、絶対品質の追及こそが明日を切り拓く！

演者：元TOTO株式会社 代表取締役副社長 猿渡 辰彦 先生

特別講演3：こども家庭庁、その目指すところ
(ビデオ講演)

演者：参議院議員 自見 はなこ 先生

会員へは5月20日に下記発送されています。

1 出欠ハガキ・委任状(返信締め切り6月4日)

出欠に関わらず委任状をお願いします。

2 総会案内リーフ

3 講演会資料

4 総会議案書・資料

2) 今月の新型コロナウイルス感染症への対応について情報交換・協議はありません。

会員異動報告

新規開業

▼八幡地区

じょうおニコニコクリニック 城尾 正彦 先生

福岡県北九州市八幡西区岸の浦1丁目3-9 2階

▼京築地区

なかむらクリニック 中村 慶司 先生

福岡県京都郡苅田町南原1661-7

委員会報告

1. 学術委員会報告：白川嘉継

2022年

7月2日 (土) 福岡県小児科医会総会

7月21日 アッヴィ合同会社 リンヴォック関連

特別講演

福岡市立こども病院 手塚純一郎先生

8月 休会

9月 ワクチンフォーラム

10月 鳥居薬品株式会社 コレクチム軟膏を検討中

11月 調整中 睡眠関連を検討中

12月 調整中 漢方薬関連を検討中

2023年

1月 総会

2月以降未定

その他、COVID-19のため、委員会は行われておりません。